

JET からの手紙

些細な喜び

熊本県熊本市教育委員会 外国語指導助手
Alan Verner (ベルナー・アラン)

花火大会、祭り、宴会、観光地巡り。約3年前に私は多くの夢を抱え、南アフリカ共和国のヨハネスブルグから24時間掛けて、憧れの日本に来日しました。

新宿での3日間の大規模研修で多くのJET参加者と広大な会場を見て、盛大なる冒険の始まりを感じました。

しかし、現実には、私の冒険は自粛と制限の多いコロナ禍での外国語指導助手(ALT)としての冒険となります。



東京新宿での大規模研修(来日直後オリエンテーション)

ALTの仕事

私のALTとしての主な仕事は「ネイティブの発音を教えること」「クラスを盛り上げること」「自分の英語に不安を持つ先生を安心させること」の3つだと思います。英語の発音では、私の言葉を繰り返させたり、カルタなどのゲームを通したりする中で、生徒たちの英語を正確な発音に近づけていきます。

ちなみに、求められている発音は教科書のアメリカ英語です。ある3年生のクラスで私が「トマト」と発音した後に小学生から散々指摘されたので、私も「タメート」と言うようになりました。

クラスを盛り上げるのは、大体ゲームやアクティビティ型の授業です。楽しむことときちんと勉強することとのバランスに難しさを感じています。

学年が上がり英語の勉強が本格的に受験用になると、ゲームなどの活動が少なくなってきますが、復習ではゲームが役立ちます。私の勤務している中学校ではタブレットを使った復習クイズゲームが人気です。

中学校には英語の先生がいっぱいいますが、小学校では自分の英語にあまり自信がない先生方が少なくありません。そのため、ほとんどのALTが教育免許や資格を持っていないにも関わらず、英語の授業において大きな役割を担っています。

私は、運良く来日する前に日本語を勉強していて、日常会話程度はできるようになっていました。日本語が通じるだけで先生方はすごく安心されます。事前の打ち合わせや授業中の確認を簡単に素早くできるので、先生の教える力と私の英語力の両方を活かすことができていると思います。

日本語が少しできるだけが取り得だと思っていた私ですが、新型コロナウイルス感染症での休校の間、Zoomを使った遠隔授業を行うことになった際は、私のパソコンの知識が役立って、英語以外の教科の先生方の役に立つことができました。



勤務先の中学校からの眺め

ALTとしての交流

JETプログラムのALTになるために教育資格は必要

ありませんが、私たち ALT の主な存在意義の 1 つは日本の学校で生徒や先生に交流の機会を与えることではないかと思います。

残念なことに、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、交流の場はかなり減ってしまいました。コロナ禍になる前は生徒と一緒に給食を食べ、各クラスの生徒と先生との交流のきっかけになり、ALT は生徒や先生にとってとても近い存在でした。そういった環境もあって、昼休みの遊びへ誘ってくれることや、職員室での雑談など、交流が自然に増えていきました。自分から話しかけることが得意ではない私にとっては、とても有り難いことでした。熊本の暑い夏、昼休みに職員室のクーラーの下で休もうとしているところに、扉から興奮した声でご指名で鬼ごっこに誘われることも少なくありませんでした。

しかし、コロナ禍で給食は黙食となり、ALT はクラスに行けずに職員室で給食を食べることになりました。私は日本語の勉強も兼ねて積極的に同僚に質問し会話を始めるようになりました。そして、生徒との交流を続けるために、部活に参加し始めました。

JET プログラムでの交流は、学校だけにとどまらず、2021 年には、JET プログラムインターンシップと JET

プログラム翻訳通訳講座に参加することができました。

新型コロナウイルス感染症の影響でインターンシップはオンラインとなりましたが、翻



翻訳通訳講座グループとの記念写真、琵琶湖

訳通訳講座の一週間の滋賀県での研修は来日したばかりの長崎県への週末旅行以来、2年数か月ぶりの県外の経験となり、思い出に残っています。

日本（熊本市）での暮らし

火の国でありながら水の国とも呼ばれている熊本市は田舎と都会の中間で、暮らしやすく感じます。川も山も多く熊本市はとても美しいところだと思います。コロナ禍で旅行はあまりできませんでしたが、アパートから自転車に乗って数分で、有名な水前寺公園や日本三名城の一つの熊本城を訪れることができます。

熊本市で過ごすコロナ禍の世の中で、とても大切なこ



熊本の水前寺公園（夏）

とを学びました。それは、身近なものに気を配り大切にすることです。当たり前にある普段の生活の中でも中学校からの眺め、小学校への道、帰りの夕日、隠れた神社。私は周りの美しさにいつも癒やされています。熊本市は、冬は寒い、夏は暑い、人は温かいという印象です。

学校以外にもテコンドーやフットサルに参加していますが、どこに行ってもみんな私に優しく接してくれます。

このような何か特別な盛大な冒険でなく、日常の些細な喜びが私の JET プログラムでの経験を充実させてくれています。小中学校への道



白山神社



学校帰りの夕日



プロフィール



Alan Verner

(ベルナー・アラン)

南アフリカ共和国のヨハネスブルグ出身。アニメ、漫画を通して、日本とその文化に憧れを抱き、それをきっかけに日本語の勉強を始める。現在は、熊本市立小中学校の ALT として勤務。来日前に専門学校でアニメーションを 2 年間勉強し、プレトリア大学で物理と数学を専攻。将来の夢は日本で働くこと。詳しくは検討中。